

A 鷲神社

『佐倉風土記』によると承平7年(937)慈恵僧正が朱雀帝の勅命により創建。現在の本殿は天保15年(1844)に建立されたもので、本殿向拝柱に彫り込まれた龍や本殿四面の彫刻は見事。また、境内地にあるケヤキは樹高16mにもなり学術的にも貴重。

B 先崎地藏尊

先崎城跡崖下の辻にあるお堂の中に、石造の合掌姿をした地藏菩薩像が祀られている。慶安3年(1650)に先崎村の友野河内を本願主とし庚申結集25人によって造られたもので、庚申信仰と地藏信仰の融合が見られる大変珍しいもの。

C 加賀清水と加賀清水の碑・成田道標

国道296号線から路地に入った先の加賀清水公園内の湧水、加賀清水の名は、延宝6年(1678)から貞享3年(1686)まで佐倉藩主であった大久保加賀守忠朝おおくぼ かがのみかみただともが、江戸参府の際にいつもこの水を賞味していたことに由来すると言われる。天保年間には近くの林屋という茶屋がこの清水を使用して茶湯をたて、繁盛した。この茶屋に立ち寄ったと言われる歌舞伎の名優、7代目市川團十郎が造立した成田山と加賀清水の所在を示した道標は、今は国道296号線沿いに残っている。

D 上座貝塚

台地上に位置する縄文時代早期の小貝塚群。竪穴住居跡2軒と火を炊いた炉穴7基が検出され、縄文時代早期後半の土器も出土している。貝塚は、使われなくなった竪穴住居跡や炉穴などの窪みに捨てられた貝が溜まったもの。貝類はマガキやハイガイ、オキシジミ、ハマグリなど海水産で構成され、当時はこの周辺にも海が迫っていたことが分かる。

E 小竹城跡

小竹城は、臼井城の支城で、臼井氏の一族小竹氏の居城であったと言われている。城跡は変形の五ないし六角形の単郭構造で、曲輪周囲には土塁と空堀がほぼ全体に巡る。遺物は12~16世紀のものが出土しているが、現在残されている遺構は原氏が臼井城主であった16世紀中頃から後半のものと考えられる。

F 飯郷作遺跡(佐倉西高等学校敷地内)

縄文時代から平安時代にかけての集落跡・古墳時代の墳墓群を中心とした遺跡。検出された古墳4基、方形周溝墓23基のうち、前方後方墳1基と方墳2基、方形周溝墓5基が校庭に保存されている。その他土器などの出土品は応接室に展示されており、授業などに支障のない範囲で見学できる。

G 下志津原の日本砲兵揺籃の地

明治19年(1886)に創立された陸軍砲兵射的学校の跡。幕末期に佐倉藩は洋式砲術高島流を取り入れこの地で演習や試打を行った。明治に入り、政府が招聘したフランスのルボン砲兵大尉により、本格的な砲術が伝習されたが、学校は明治30年(1897)に四街道に移転され、現在この地には高さ約2.8メートルの碑が建てられている。

地区に伝わる民俗行事

●青菅のどんどれえ

青菅で1月14日の夕方から夜にかけて行われる小正月の行事。木や竹を中心にして、正月に使用した門松や注連縄などの正月飾りを高く積み上げて焼く。この火にあたると体が丈夫になり風邪をひかないと言われ、また火が弱まってきたところに篠竹の先に餅を刺して焼き、これを食べると病気をしないといわれている。

●井野の辻ぎり

毎年1月25日に藁で作った大きな蛇を村境の大きな木に取り付け、災厄や疫病などが外部から進入するのを防ぐための行事。蛇は大辻・小辻の2種類が作られ、全長2間半ほどの大辻が井野地区内の村境6か所の木に掛けられ睨みをきかす。この蛇はいくつもの決まりに従って、毎年願いを込めて作られる。

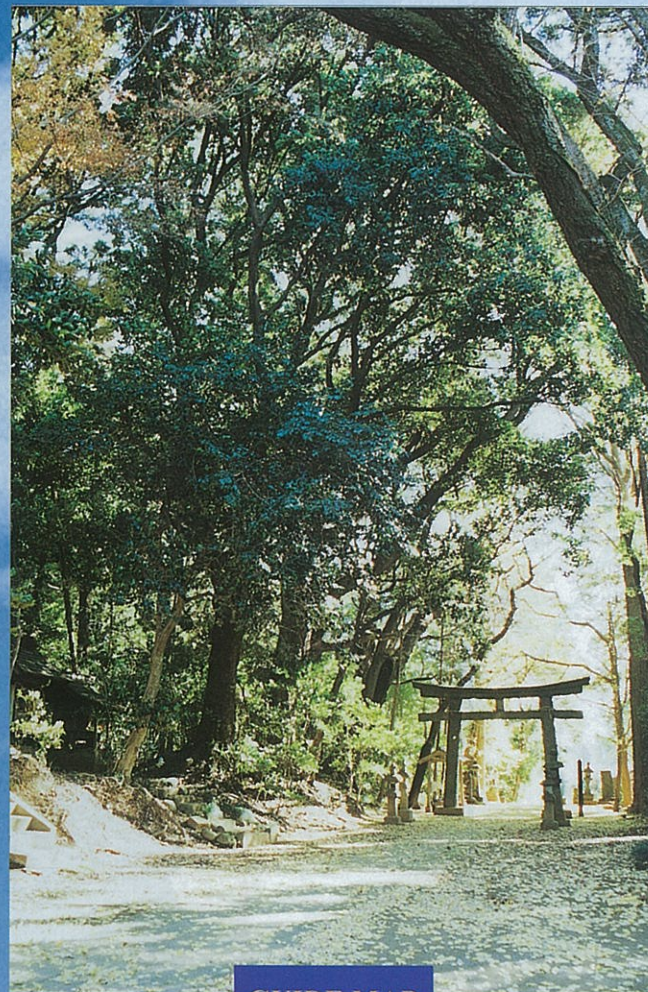
佐倉市教育委員会文化課

〒285-8501 佐倉市海隣寺町97 TEL.043-484-6192

志津

SHIZU

さんさく
ミニ見ガイド



GUIDE MAP

SHIZU GUIDE MAP

二見に
三

<地区案内>

志津地区は、ユーカリが丘駅周辺の大型ショッピング店や新交通“ボナ”に象徴されるような先進的な街づくりと大規模な宅地開発がされてきましたが、一方で豊かな自然や文化財も多く残されているのが特徴です。今も残る遺跡や城跡・石碑などを訪ね歩くと、新しい街というイメージの中にも先人達が築いてきた豊かな文化や歴史を感じられることでしょう。



印旛村

八千代市

四街道市



のんびり歩いて
約20分



①～⑥ 井野の辻ざり
(大辻が掛けられる場所)

国道296号(旧成田街道)
 緑地
 公園